

栃木県及び周辺の地震活動（令和 7 年 7 月）

【地震活動概況】

今期間に県内で観測した最大震度は 4 でした。期間内に県内で震度 1 以上を観測した地震は 11 回（前月 8 回）、震度 3 以上を観測した地震が 1 回（前月 1 回）ありました。

【栃木県及び周辺の地震活動】

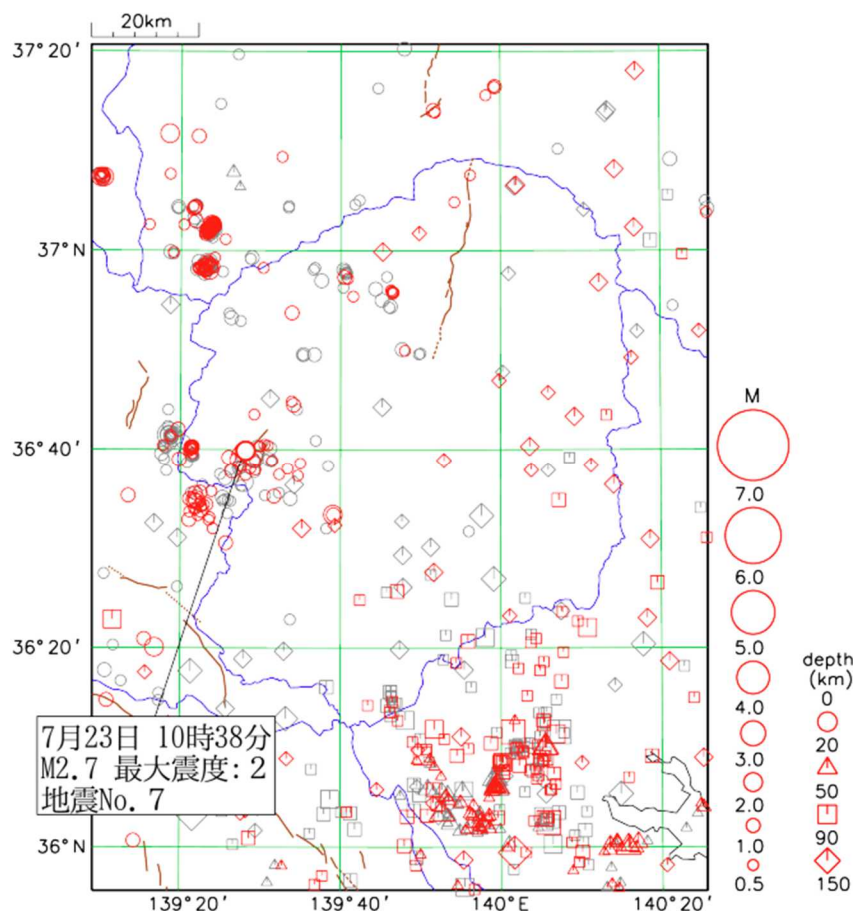


図 1 震央分布図（2025 年 6 月 1 日～2025 年 7 月 31 日）

- ・今期間の地震活動を赤色で、前月の地震活動を灰色で示しています。
- ・図中の吹き出しを付けた地震は、県内震度観測点で震度 3 以上を観測した地震及び県内を震源とする震度 1 以上を観測した地震です。地震 No. は県内で震度 1 以上を観測した地震のリストに対応しています。
- ・M はマグニチュードで 0.5 以上、深さ（depth）は 150km までの地震を示しています。
- ・図中の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示しています。

本資料は国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。※データについては精査により、後日修正することがある。また、本資料中で使用している地図は、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』（国土地理院）を加工して作成した。

【7月に県内で震度1以上を観測した地震のリスト】

地震 No.	発震時		震央地名	北緯	東経	深さ (km)	マグニ チュード	国内最 大震度	県内最 大震度
	月日	時分							
1	7月1日	1時13分	茨城県南部	36° 06.1'	139° 59.4'	47	3.6	2	2
2	7月5日	2時35分	茨城県南部	36° 03.3'	139° 52.6'	45	3.1	1	1
3	7月5日	3時14分	福島県沖	36° 41.9'	142° 02.6'	18	4.9	2	2
4	7月8日	16時41分	茨城県南部	36° 11.5'	140° 01.4'	52	3.1	1	1
5	7月8日	21時12分	群馬県南部	36° 34.8'	139° 21.8'	4	2.9	1	1
6	7月15日	23時47分	茨城県北部	36° 27.6'	140° 36.7'	56	4.9	4	4
7	7月23日	10時38分	栃木県北部	36° 39.8'	139° 28.1'	2	2.7	2	2
8	7月23日	12時13分	福島県沖	37° 00.9'	141° 01.6'	67	3.7	2	1
9	7月25日	12時16分	福島県浜通り	37° 03.2'	140° 42.9'	18	4.2	3	1
10	7月25日	18時12分	茨城県沖	36° 38.6'	140° 55.9'	48	4.2	3	1
11	7月30日	3時58分	茨城県南部	36° 09.9'	140° 05.4'	50	3.8	2	2

・各地震の震度1以上を観測した観測地点名については、気象庁HP「震度データベース検索」により確認できます。

<https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.html>

【震央分布図範囲内の地震】

1. 栃木県北部（地震No. 7）

23日10時38分に栃木県北部で発生した地震（深さ2km、M2.7）により、栃木県日光市足尾町中才で震度2を観測しました（図2）。

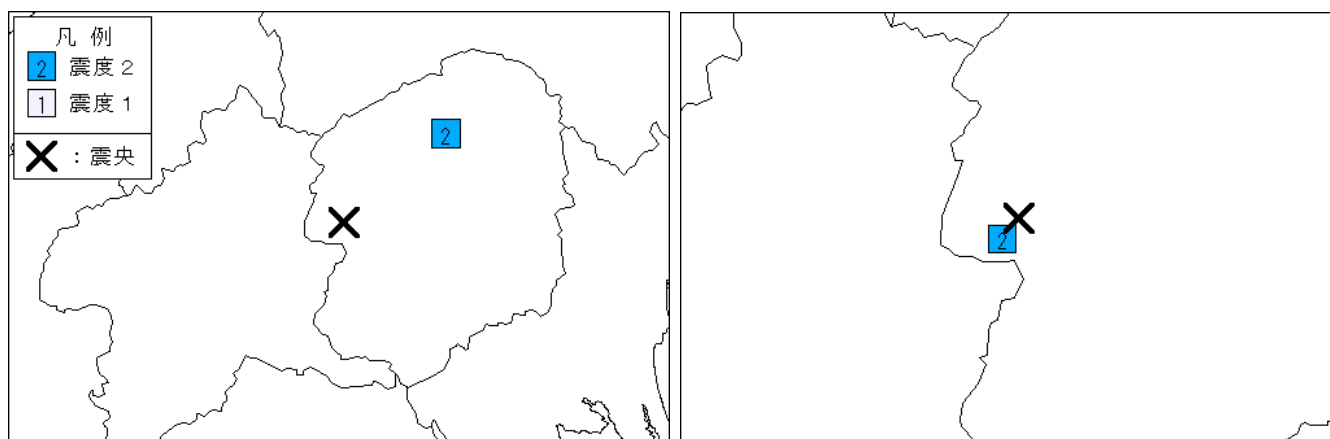


図2 23日10時38分 栃木県北部の地震 左図：地域震度 右図：地点震度

【震央分布図範囲外の地震】

1. 茨城県北部（地震No. 6）

15日23時47分に茨城県北部で発生した地震（深さ56km、M4.9）により、栃木県、茨城県で震度4を観測したほか、宮城県、福島県、関東甲信越地方、静岡県で震度3から1を観測しました。栃木県では市貝町で震度4を、7市町で震度3を、17市町で震度2から1を観測しました（図3）。

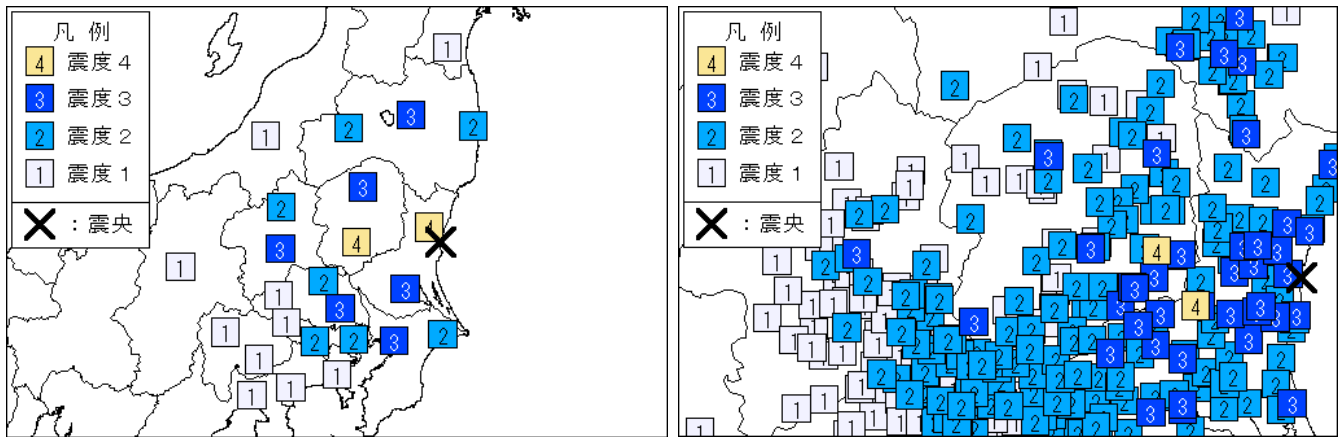


図3 15日23時47分 茨城県北部の地震 左図：地域震度 右図：地点震度

【防災メモ】遠地震による津波について

7月30日08時24分（日本時間）にロシア、カムチャツカ半島東方沖でM8.7（速報値）の地震が発生しました。この地震により、北海道から九州にかけて震度2～1の揺れを観測しました。当初マグニチュードは8.0であったため、気象庁は08時37分に北海道太平洋側から和歌山県にかけてと宮崎県に津波注意報を発表しましたが、その後マグニチュードが8.7に更新されたため、09時40分に北海道太平洋側から和歌山県にかけて津波警報へ切り替え、北海道のオホーツク海側と日本海側、青森県の陸奥湾と日本海側、四国地方、九州地方及び沖縄県にかけて津波注意報を発表しました（図4）。国内で観測された津波の高さは、7月30日13時52分に岩手県久慈港で観測された1.4m（速報値）が最大です。発表された津波警報・注意報は地震発生翌日の7月31日16時30分にすべて解除されています。

今回の地震の震源は北海道から1,000km以上離れており、このような地震を遠地震といいます。この地震では津波警報・津波注意報が発表された地域の多くは震度1以上の揺れが観測されていませんでした。規模の大きな地震が発生しても震源から遠く離れていると揺れを感じない場合もあります。揺れを感じなくても津波警報等が発表されることはありますので、沿岸部や川沿いにお出かけの際に津波警報等が発表された場合は、ただちに近くの高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。津波警報等はテレビやラジオ、スマートフォン等で入手できるほか、防災行政無線のサイレンなど聴覚による伝達や、海水浴場等では「津波フラッグ（図5）」による視覚的伝達が行われているところもあります。

また、遠地震による津波の特徴として、長い距離を津波が伝わる間に途中の島や海底地形の影響を受けやすく、津波が長時間継続する、あるいは複数の波が重なって著しく高い波となることがあります。今回も海底地形で反射したと考えられる比較的周期の短い津波が観測されており、津波注意報の解除までに時間を要した一因とみられています。よって、長時間の避難が可能な備えをしておくことが求められますし、突然の警報で着の身着のまま避難した場合でも、海には近づかず安全を確保しつつ水や食料品を適宜調達し、避難中の健康に留意して行動することも大切です。

暑い日が続き、海に出かけたくなる季節になりました。楽しい時間を過ごすためにも、津波への備えを今一度確認してみましょう。

・津波警報・予報

<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=tsunami>

・津波から身を守るために

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/tsunami_bosai/index.html

・津波フラッグ

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/jishin/tsunami_bosai/tsunami_bosai_p2.html

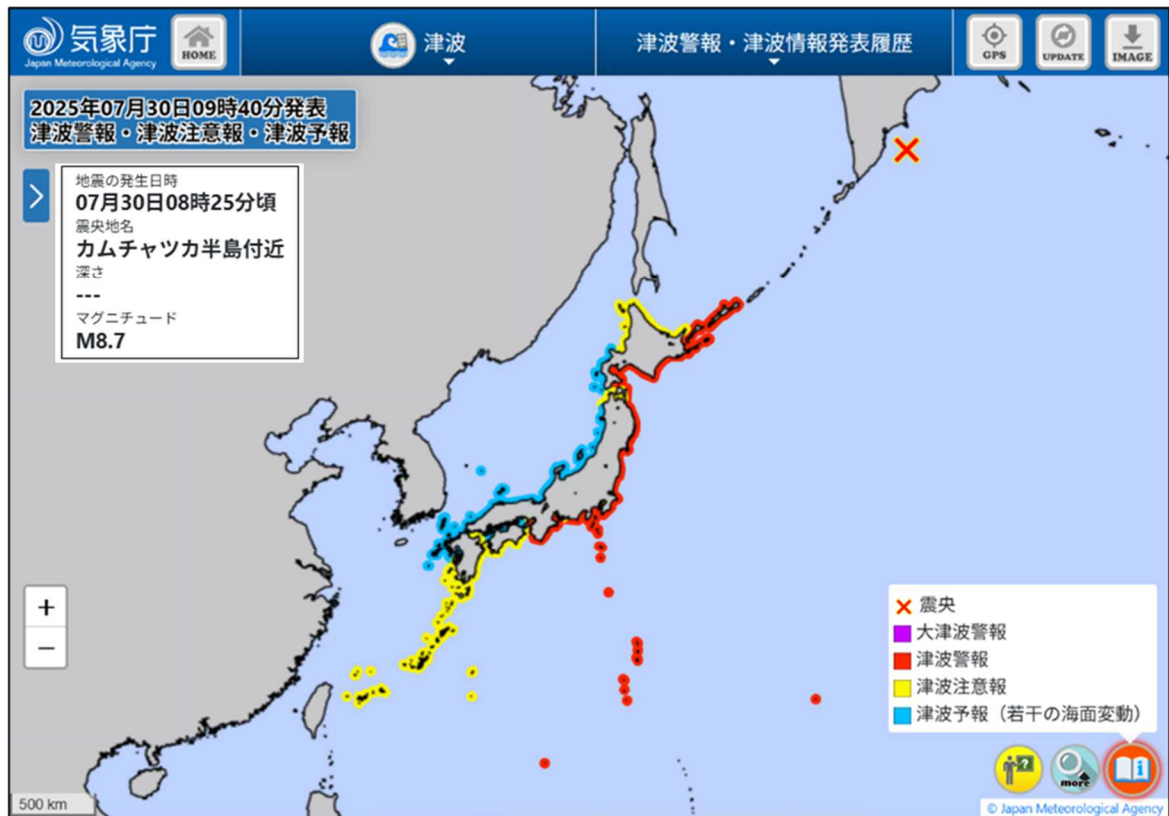


図4 7月30日にカムチャツカ半島東方沖で発生したM8.7の地震による津波警報・注意報発表状況

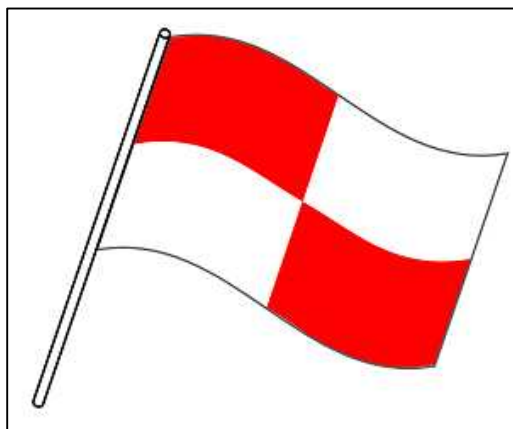


図5 津波フラッグ（左：津波フラッグ 右：海岸で津波フラッグを振っているイメージ）
（公益財団法人）日本ライフセービング協会提供

資料についての問い合わせ先：宇都宮地方気象台 電話 028-635-7260